

2.10 ノードの選択

ノードの選択

● 処理するノードをXPathで選択する

```
1: <xsl:stylesheet
   xmlns:xsl="http://www.w3.org/1999/XSL/Transform"
   version="1.0">
2: <xsl:template match="/">
3:   <root>
4:     <title><xsl:value-of select="/全国/タイトル" /></title>
5:     <xsl:apply-templates select="全国/情報" />
6:   </root>
7: </xsl:template>
8: <xsl:template match="全国/情報">
9:   <data><xsl:value-of select="県花" /></data>
10: </xsl:template>
11: </xsl:stylesheet>
```

xsl:apply-templates命令のselect属性では、XPath式を記述することによってノードを選択します。XPath式はノードセット以外のオブジェクトを返す式もありますが、xsl:apply-templates命令のselect属性では必ずノードセットを返すXPath式を記述しなくてはなりません。

● 絶対パスと相対パス

ノードを選択するXPath式は、ルートノードから記す絶対パスと、起点となる何らかのノード（カレントノード）から記す相対パスがあります。

次のようなソースXML文書とXSLTスタイルシートで説明します。

ソースXML文書

ファイル名 : s210.xml

```
<全国>
<タイトル>都道府県の県花</タイトル>
<情報>
  <県名 読み="ほっかいどう">北海道</県名>
  <県花>ハマナス</県花>
</情報>
<情報>
  <県名 読み="あおもりけん">青森県</県名>
  <県花>りんご</県花>
</情報>
<情報>
  <県名 読み="おきなわけん">沖縄県</県名>
  <県花>でいご</県花>
</情報>
</全国>
```

XSLTスタイルシート

ファイル名 : s210a.xsl

```
1: <xsl:stylesheet xmlns:xsl="http://www.w3.org/1999/XSL/Transform" version="1.0">
2:   <xsl:template match="/">
3:     <root>
4:       <title><xsl:value-of select="/全国/タイトル" /></title>
5:       <xsl:apply-templates select="全国/情報" />
6:     </root>
7:   </xsl:template>
8:   <xsl:template match="全国/情報">
9:     <data><xsl:value-of select="県花" /></data>
10:   </xsl:template>
11: </xsl:stylesheet>
```

出力結果（インデントは読みやすくするためのものです）

```
<root>
  <title>都道府県の県花</title>
  <data>ハマナス</data>
  <data>りんご</data>
  <data>でいご</data>
</root>
```

このXSLTスタイルシートには、絶対パスによるXPath（4行目）と相対パスによるXPath（5、9行目）の両方が記述されています。

テンプレートを処理する時点では、必ず何らかのノードがカレントノードとなっていますので、相対パスを考えるときにはそれが記述されているテンプレートのカレントノードを起点にします。5行目のxsl:apply-templates命令は、2～7行目で構成される、ルートノードに対するテンプレート内であり、カレントノードはルートノードです。従って相対パスの記述はルートノードを起点にすることができ、そこまで（ルートノードまで）の記述を省略することができます。